

2021年難民関連文献一覧

【図書】

- 阿部浩己『国際法を物語る 4 難民の保護と平和の構想』朝陽会
安齋耀太『ドイツの庇護権と難民問題』三重大学出版会
伊藤武=網谷龍介編『ヨーロッパ・デモクラシーの論点』第2部「ヨーロッパ政治における課題と政策」ナカニシヤ出版
伊豫谷登士翁『グローバリゼーション—移動から現代を読みとく』第2部「移動とは何か」筑摩書房
岩沢雄司=岡野正敬編『国際関係と法の支配—小和田恆国際司法裁判所裁判官退任記念』第2部「国際関係論部門」第1章「国際関係」40「難民に関するグローバル・コンパクト」のためのネットワーク・ガバナンス—難民の国際保護に関するアジア・ネットワークの可能性—」信山社
大矢根聡編著『戦後日本外交からみる国際関係：歴史と理論をつなぐ視座』第V章「グローバルな統合と危機，日本の模索（2000年代～）」第29章「多発する難民・移民」ミネルヴァ書房
カリド・コーザー著、是川夕監訳、平井和也訳『移民をどう考えるか：グローバルに学ぶ入門書』勁草書房
川村千鶴子編著『多文化共創社会への33の提言』都政新報社
菅野賢治『「命のビザ」言説の虚構 リトアニアのユダヤ難民に何があったのか？』共和国
木村真希子『終わりなき暴力とエスニック紛争 インド北東部の国内避難民』慶應大学出版会
児玉谷史朗=佐藤章=嶋田晴行編『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』第III章「移民・難民—グローバル・サウスの越境する人々—」ミネルヴァ書房
近藤敦『移民の人権—外国人から市民へ』明石書店
佐藤都喜子『現代ヨルダン・レポート：アラブの女性たちが語る慣習・貧困・難民』第4話「シリア難民とヨルダン」名古屋外国語大学出版会
鈴木江理子編著『アンダーコロナの移民たち—日本社会の脆弱性があらわれた場所』明石書店
鈴木健夫『ロシアドイツ人 移動を強いられた苦難の歴史』亜紀書房
高橋和夫『パレスチナ問題の展開』左右社
中井遼『欧州の排外主義とナショナリズム—調査から見る世論の本質』第6章「ナショナリストが煽る市民の排外感情—ラトビア選挙戦の効果検証」第2節「ラトビアの右翼政党と反移民・難民運動」新泉社
中坂恵美子=池田賢市編『人の移動とエスニシティ—越境する他者と共生する社会に向けて』明石書店
中西嘉宏『ロヒンギャ危機：「民族浄化」の真相』中央公論新社
長谷部美佳『結婚移民の語りを聞く インドシナ難民家族の国際移動とは』ハーベスト社
羽場久美子編『移民・難民・マイノリティ；欧州ポピュリズムの根源』彩流社
本多美樹=山田満編『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築—共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』明石書店
村橋勲『南スーダンの独立・内戦・難民』昭和堂

【論文】

- 秋山瑞季「退去強制手続における外国人の収容」『調査と情報』1140号、1～13頁
阿部浩己「一般化した暴力状況にある国への送還 3条違反の敷居と国内避難可能性—スフィおよびエルミ判決—」『人権判例報』第3号、31～37頁。
新井信之「テロ・難民に関する EU 基本諸条約および EU 移民法の枠組みと「移動の自由」（藤田寿夫教授退職記念号）」『香川法学』40巻3・4号、430～368頁
安藤由香里「欧州難民保護制度から見る日本の難民保護への示唆」印南敬介編『オンライン授業報告書（SDGsに関する大阪大学実績報告書）：林田雅至退職記念論文集』、286～302頁
安藤由香里「国際人権法から見る非正規滞在者問題：2021年入管法改正法案と子どもの最善の利益（特集 移住と人権）」『社会と倫理』36号、35～52頁
上原優子=筒井久美子「訪日した難民に対する大学生の意識」『地域情報研究』10巻、61～77頁
大原天青=竹内章子「無国籍の子どもに対する国籍取得に向けた対応と連携」『社会福祉研究』141号、88～96頁
尾形健「行政裁量の憲法的統制について—出入国管理行政をめぐる司法審査の一側面から—」『立命館法学』、393/394

巻、188～213頁

- 尾川知那＝神野アビジョイ＝川村ひなの＝蔵内靖恵＝ゾルジャリアンナリン＝渡邊好＝田中雅子「日本の入管制度の課題を学び、伝えるー「仮放免」当事者へのインタビューから教材作成まで」『グローバル・コンサーン』3号、226～243頁
- 小畑郁「戦後日本外国人法史のなかのマクリーン「判例」：自由な入国拒否権から自由な在留管理権への「命がけの飛躍」[最大判昭和53.10.4]（小特集 人・移動・帰属：変容するアイデンティティ）」『法律時報』93巻8号、88～96頁
- 小野塚和人「オーストラリアの地方部における難民認定者の労働力登用：ビクトリア州ニルのカレン人招へいにみる受け入れ施策の考察」『グローバル・コミュニケーション研究』10号、101～122頁
- 加朱将也「難民キャンプにおけるスポーツを通じた教育援助の意義：ーシリア難民キャンプにおける参加型アクション・リサーチを用いた活動を事例としてー」『国際開発研究』30巻1号、91～106頁
- 梶村美紀「コロナ禍における日本の無国籍者への支援」『東アジア研究』75号、65～77頁
- 河越真帆「欧州の移民をめぐるー考察ーEU および英国とフランスの事例からー」『グローバル・コミュニケーション研究』10号、31～50頁
- 河先俊子「ベトナム難民2世の職業選択と社会統合：8人のインタビュー調査から」『21世紀アジア学研究』19号、19～29頁
- 岸見太一「富裕な民主主義諸国の難民政策についての慣行に則した政治哲学的論証の試み——David Miller and Christine Straehle (eds.), *The Political Philosophy of Refuge* (Cambridge University Press, 2019) を読む」『政治思想学会会報』第52号、4～6頁
- 北山夕華「教育における多文化主義とその実践：ノルウェーの中学校の事例から」『大阪大学教育学年報』26号、3～13頁
- 北村泰三「基調講演 外国人の追放に関する国家の主権的裁量と国際人権法：難民法への人権アプローチ（特集 出入国管理と外国人の人権）」『国際人権：国際人権法学会報』32号、31～36頁
- 児玉晃一「入管法における適正手続の要請（特集 日本国憲法と国際的な人権保障をめぐる諸問題）」『法学館憲法研究所 law journal』25号、119～138頁
- 鈴木慶孝「「移民・難民受け入れ国トルコ」におけるシリア人の社会的包摂に関する一考察」『法学政治学論究：法律・政治・社会』131号、57～89頁
- 櫻井美香＝森恭子「地域で暮らす難民の生活実態と孤立状況」『人間科学研究』42号、111～122頁
- 清水晴生「退去強制拒否処罰における犯罪の実質の欠缺並びに全件収容主義の比例原則違反について」『白鷗法学』28巻1号、63～77頁
- 白子順子＝白子隆志「バングラデシュ南部避難民に対する Red Cross Red Crescent Emergency Field Hospital での外科支援」『日本災害医学会雑誌』26巻2号、62～68頁
- 杉江あい「ロヒンギャ難民のミャンマーにおける経験：バングラデシュナヤパラキャンプにおけるインタビューをもとに」『広島大学現代インド研究：空間と社会』11号、1～19頁
- 高尾栄治「国連人権理事会・恣意的拘禁作業部会「Deniz Yengin 及び Heydar Safari Diman（日本）に関する意見 No.58/2020」の紹介：日本政府による入管収容施設への収容について、世界人権宣言及び自由権規約の規定に違反しており、恣意的な身体的自由の剥奪にあたと判断した意見」『武蔵野法学』14号、124～198頁
- 高嶋由美子「難民問題とは何か？アフガニスタン難民からの教訓」学習院大学（博士論文）
- 高橋済「改善されない長期収容問題（特集 「入管法」改悪を許すな：移民・難民に共に生きる権利を）」『部落解放』806号、23～27頁
- 高橋済「在留資格のない人（外国人）の人権と行政裁量の統制に関する一考察（特集 出入国管理と外国人の人権）」『国際人権：国際人権法学会報』32号、55～60頁
- 武田里子「帰化制度における原国籍の事前離脱問題」『国際地域学研究』24号、101～119頁
- 鶴園裕基「台港関係における「移民・難民」の歴史と現在（特集 香港と台湾の現在・未来・過去）」『ワセダアジアレビュー』No.23、69～72頁
- 渡名喜庸哲「アーレント・難民・収容所（1）境界を越えて：比較文明学の現在」『立教比較文明学会紀要』21号、57～68頁
- 錦田愛子「国家主権の外側にある者の危機：COVID-19 禍におかれた移民/難民およびパレスチナ」『法学政治学論究：法律・政治・社会』131号、27～56頁

- 橋本直子「分野別研究動向（難民・強制移住学）：海外における強制移住学の過去10年とこれから」『社会学評論』71巻4号、704～728頁
- 長谷川貴陽史「日本における移民・難民の包摂と排除：序論的考察（小特集 人・移動・帰属：変容するアイデンティティ）」『法律時報』93巻8号、66～70頁
- 長谷部美佳「カンボジア難民の語る「エスニック・コミュニティ」と「日本社会」とのつながり」『語りの地平：ライフストーリー研究』Vol.6、145～156頁
- 秦野環「緊急流入が難民定住地の長期滞在女性難民に及ぼした影響 ウガンダ難民定住地での調査報告（その1）」『聖マリア学院大学紀要』Vol.12、11～19頁
- 浜崎桂子「当事者の語りの戦略：Abbas Khiderの小説の語りの構造」『異文化コミュニケーション論集』19号、51～63頁
- 日尾野裕一「イギリス大西洋世界とプファルツ難民（特集 人の移動における自由と不自由のあいだ）」『調査と情報』90号、3～20頁
- 樋口裕城「ロヒンギャ難民流入が受入地域の住民と環境におよぼした影響の定量評価：既存研究のレビューと予備的なデータ分析」『上智経済論集』66巻1・2号、37～48頁
- 人見泰弘「民族をめぐる対立と交流の位相：滞日ビルマ系難民の国際移動の事例から」『アジア遊学』257、66～78頁
- 付月「判例紹介 旧ソ連・ジョージア出身の無国籍者の難民認定と退去強制：難民不認定処分取消，退去強制令書発付処分無効確認等請求控訴事件[東京高等裁判所 2020.1.29 判決]」『国際人権：国際人権法学会報』32号、109～111頁
- 「退去強制手続における外国人の収容」『調査と情報』1140号、1～13頁
- ヘラ・マリアヌス・パレ「わたしが世に属していないように、彼らも世に属していない（ヨハ 17:14, 16）」：聖書の観点から見る移民・難民」『社会と倫理』36号、5～20頁
- マキンタヤ・ステイーブン・パトリック「庇護希望者の「消極的」な受け入れと「国家の時間」という暴力：在日ロヒンギャの経験から」『移民政策研究』Vol.13、95～100頁
- 松本勝明「庇護申請者に対する最低生活の保障—ドイツ庇護申請者給付法—」『社会関係研究』27巻1号、73～93頁
- 宮川成雄「アメリカ法判例研究（29）難民庇護申請者の人身保護令状とデュー・プロセスによる保護：Department of Homeland Security v. Thuraissigiam, 140 S. Ct. 1959（2020）」『比較法学』55巻2号、27～38頁
- 宮島喬「国民の二層化と「移民・難民問題」の政治的構築：ヨーロッパ2015～16年"危機"の一考察（今、平和にとって「国民」とは何か）」『平和研究』55号、1～19頁
- 望月葵「欧州難民危機以降の国民国家体制のレジリエンス：西欧諸国におけるシリア難民に対する移民・難民政策のゆらぎ」『イスラーム世界研究』14巻、228～244頁
- 森田直美＝金森万里子＝能智正博＝近藤尚己「日本の在住外国人における医療アクセスが困難な人の特徴とアクセス抑制因子および効果的な支援策に関する混合研究」『国際保健医療』36巻3号、107～121頁
- ライチャーニ・ヤコブ「倫理神学から見る難民問題」『社会と倫理』36号、21～34頁
- 山下梓「LGBTI 庇護希望者の困難と保護に関する課題についての一考察（特集 出入国管理と外国人の人権）」『国際人権：国際人権法学会報』32号、42～45頁
- 吉岡志津世「Flannery O'Connor「難民」試論：displacement を手がかりに」『グローバル・ローカル研究』No.14、47～45頁
- 渡貫諒「いわゆる「マクリーン基準」の内在的拡張可能性：無国籍問題を巡る裁判例を素材として」『大阪経済法科大学21世紀研究』12号、91～108頁